令和６年4月30日　NO.2

学校だより

小松川第二小学校
校長　五十嵐　一嘉

言語感覚を磨く

校長　五十嵐　一嘉

４月２０日（土）に、「学校公開」を行いました。新しい年度が始まって間もないこの時期の授業公開は、教員にとってはかなり「厳しい」ものです。しかしこの時期に、新しい学級での子供たちの様子を保護者の皆さんに参観していただくことは、大変意義のあることと考えます。

当日の３校時には「児童引き渡し避難訓練」を行いました。今年度は校舎内での引き渡しとしました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。今後も様々な状況を想定して、訓練を行っていきます。

さて、皆さんは「刺さる」という言葉はどのような場面で使うものと考えますか。また「刺さる」という言葉にはどのような印象をもたれますか。

「心に刺さる」という表現はよく使われます。以前はダメージを受けて傷つく様子を表す言葉として使われていました。しかし、最近では感動や共感を意味する表現として使われることが多くなってきたと感じています。

「この言葉、すごく心に刺さった」と表現する際の「心に刺さる」の意味合いとして２通りの捉え方ができます。

一つ目は攻撃される、傷つくという意味です。「刺さる」というのは鋭利なものが食い込む状態をイメージさせます。それが心に刺さるというのは、グサッと傷つけられるというニュアンスで使われるのが一般的でした。

二つ目の捉え方としては、感動や感心、共感を意味するパターンです。一つ目で紹介した意味合いはネガティブなものでしたが、こちらは比較的良い意味で使うことが多いでしょう。映画や音楽で素敵な作品に出合ったときに、「これは心に刺さる」とほめ言葉として表現するのです。

調べてみると、この新しい「刺さる」の表現は、２０１５年に「新語」として紹介されていました。従来は「心に刺さる」「胸に刺さる」というように使われていたのですが、最近では「刺さる」の単語のみで使われることも多くなってきています。

「胸に刺さる」や「言葉が刺さる」は今では良い意味と悪い意味の両方で使われるようです。しかし私は良い意味として使う「刺さる」に少し違和感があります。そのため、別の表現を探して使っています。例えば「心に響く」や「心にしみる」「感銘を受ける」といった表現が自分の気持ちにより近いと感じます。

言葉は「いきもの」ですから、時代とともに変化していくものでしょう。しかし言葉の本来の意味を大切にする感性も大事にしていきたいと思っています。

最後に私の心に響いた、お気に入りのフレーズを紹介します。

「大丈夫、行こう、あとは楽しむだけだ」

～YOASOBI　「群青」の歌詞から～　２０２０年